

子連れ単身赴任だからこそ
家庭の事情はオープンに、
皆で助け合える関係を構築



警察庁
生活安全局生活安全企画課課長補佐

ふさぎき ゆき
総崎 由希

Profile

- 平成18年・警察庁入庁(1種(法律区分)採用)
- 平成23年・内閣官房副長官補付(東日本大震災復興対策本部事務局)
東日本大震災復興特別区域法制定等
- 平成24年・復興庁統括官付参事官付主査
東日本大震災復興特別区域法運用等
- 平成25年・警察庁組織犯罪対策部組織犯罪対策企画課課長補佐
暴力団、外国人犯罪組織等への対策の企画立案等
- 平成27年・警察庁長官官房総務課課長補佐
都道府県警察の業務の合理化・効率化推進等

転勤

- 平成28年・福岡県警察本部警備部公安第一課長
テロ対策のための情報収集、サイバー攻撃対策等

- 平成30年・警察庁長官官房人事課課長補佐
警察組織における働き方改革推進等
- 令和元年・警察庁生活安全局生活安全企画課課長補佐
～現在
ストーカー・DV対策、犯罪の抑止対策等

※経歴一部省略

東日本大震災からの 復興政策に携わった経験が その後の業務の糧に

平成18年に警察庁に入庁しました。入庁から約10年間は、主に震が関で、法令の立案作業等を担当してきました。何より印象深いのは、平成23、24年頃の業務です。

平成23年3月、東日本大震災が発生しました。その頃、警察庁刑事局にいた私は、災害対応、行方不明者の捜索支援等の業務を行う中で、有事即応の警察の組織力と、現場で必死になって救助活動等を行う一人一人の警察職員の使命感を強く実感しました。当時は、自分が近い将来、災害対応の指揮の一翼を担うとは思っていませんでしたが、福岡県警察に出向した際の災害対応において、人命救助のため、迅速な判断を下していくに当たって、このときの経験が生きたことは間違いありません。

また、同じ年の7月から、内閣官房東日本大震災復興対策本部事務局に出向し、全省庁から集まってきた上司、同僚と一緒に、被災地復興のための特別法の制定等を行いました。復興対策本部事務局が復興庁となった後も引き続き勤務し、復興に向けて一歩を踏み出す被災自治体の伴走者として、自分たちが立案した法律を効果的に活用してもらうための知恵を出す仕事をさせてもらいました。「未曾有の国難」に際し、復興政策全体をリードする場所で仕事ができただことは得難い経験でしたし、

より広い視野で物事を捉えられるようになったと思います。

地方勤務は、キャリアを築く 絶好のチャンス

● 現場を知るため、地方勤務を志願

丸2年の出向を経て警察庁に戻った後、課長補佐になり、都道府県警察との協議や政策検討において、これまで以上に主体的に企画立案を担う立場になりました。その中で、都道府県警察の実務の実態を直接見聞きたい、自分が企画立案した施策が都道府県警察でどのように運用されているのか確認したい、との思いが強くなっていました。

こうした気持ちが叶い、平成28年3月、入庁10年の節目に、福岡県警察本部警備部公安第一課長を命ぜられ、着任しました。

テロ対策のための情報収集やサイバー攻撃対策といった業務自体、全く未経験の分野でした。また、福岡県警察の警備部門を代表する課の課長として、他部門との折衝、県下警察署への指導等、対外交渉の前面に出る機会が多く、どちらかと言えば交渉官を支える裏方に徹する震が関の課長補佐業務との違いに、当初は非常に戸惑いました。それでも、課員に支えられながら、精一杯業務に邁進し、毎日、新しい発見に知的好奇心を刺激される本当に楽しい2年間でした。

● 子どもを連れての単身赴任

そもそも、警察庁は、都道府県警察とい

う「現場」勤務と「震が関」勤務を繰り返し、キャリアアップしていく役所です。その点が、警察庁の最大の魅力であるからこそ、女性であっても現場勤務のチャンスは逃さず経験したいと思っていました。

一方、震が関で働いていても育児と仕事の両立に悩むことがあったので、新しい土地に子どもを連れて赴任し、初めての仕事をすることに不安がなかった訳ではありません。

ですが、「案ずるより産むが易し」とはよく言ったもので、いざ転勤してみると、転勤先の職場の皆さんが、私の育児の事情も含めて迎えてくれ、逆に、子どもがいたことが仕事にとってもより良い結果を生んだと思うことが多々ありました。



平成28年熊本地震の被災地から戻った部隊員を出迎えている様子



若手警察官への講話を行っている様子

特に、課員の業務マネジメントをする上で、私自身が家庭事情を包み隠さずオープンにしたことが、結果として、課内の風通しを良くし、課員がお互いの家庭の事情等も含めて理解し合い、助け合える職場環境を作ることに繋がったと思っています。

● 職業人として、そして母として

もちろん、困ったことがなかった訳ではありません。福岡に着任した直後に熊本地震があり、翌年には、福岡県朝倉市で甚大な被害が出た平成29年7月九州北部豪雨がありました。こうした災害発生時、私は、県内の被害状況把握のための情報収集から広報対応まで一手に指揮する立場だったため、発災直後から県警本部に泊まり込み、しばらく帰宅できなくなりました。その間、子どもは気がかりでしたが、預け先や親族の力を借り、また、普段から家庭の事情を話していたおかげで職場の皆さんにも気に掛けてもらい、何とかやりくりをすることができました。

結果として嬉しかったのは、その後、職場

の皆さんが、我が子に対して私の仕事内容や仕事ぶりをたくさん語り聞かせてくれたことです。私と離れることを寂しく思っている我が子ですが、自分の母親が、自分と離れている時間、人々の安全安心を守る大事な仕事をしていること、また、職場の人々から必要とされていると感じ取ってくれたと思っています。

仕事と家庭、 その両立の実現のために 心掛けていること

仕事と家庭の両立において、悩みが尽きることはありません。仕事の立場の変化や子どもの成長に合わせ、その都度、新しい悩みが生じていると感じます。ですが、どんなときも、自分自身のキャリアアップを諦めたいけないと言いつけています。家庭の事情も含めた自分の現状、その中でできることとできないこと、自分が思い描くキャリアの展望を、率直に、上司や組織に伝えれば、必ず周囲が応援してくれるし、自ずと道が開けると信じています。また、助けてもらうからこそ、次は自分が誰かを助け、支える仕事をしようと思っています。

「おかげ様」と「お互い様」。この気持ちの連鎖が、男性も女性も働きやすい職場を作っていくと信じています。

1日のタイムスケジュール例(転勤時)

- 6:00 起床
- 8:30 出勤、課員から前日の事案報告等を受ける
- 9:30 業務の依頼や指導のため、警察署を巡回
- 13:30 県警本部内の会議、他課の課長と積極的に意見交換
- 15:00 決裁、課内に限らず、広く部内の業務担当者から話を聞く
- 17:45 定時退庁、子どもと一緒に帰宅
- 19:00 夕飯、お風呂
- 22:00 子どもを寝かしつけた後、読書をしたり、業務の勉強をしたり
- 23:00 就寝

女性職員への メッセージ

画一的なワークスタイルが当たり前ではない時代になりました。ライフステージの変化とともに、必然的に働き方の変化を求められる女性こそ、性別を問わず、後輩たちの良いロールモデルになれるのではないのでしょうか。

人事課からの メッセージ

Q 警察庁職員はどのような所属で勤務する可能性がありますか。

A 職員の採用区分等に応じて、そのキャリアパス也多岐に渡りますが、例えば総合職警察官は、警察庁の附属機関、地方機関、都道府県警察、他省庁、海外機関等において勤務する可能性があります。

Q 女性職員のキャリアパス形成支援等に関し、どのような配慮・工夫を行っていますか。

A 女性職員に対して適切なキャリアパスを提示し、キャリア形成の支援に努めるとともに、人事担当者等が必要に応じて女性職員との面談を実施し、キャリアパスに対する希望等を聴取しているほか、転居を伴う職員の内示を可能な限り早期に実施するよう努めています。

